

## 第3回 周南市まち・ひと・しごと創生戦略会議（第2部会）会議録

日 時 平成27年9月10日（木） 9時30分から

場 所 周南市役所3F 防災会議室

出席者 ・委員 4名

谷口 博文、姉ヶ山 将和、中川 明子、石光 須美恵

・担当課・事務局職員 6名

藤本 儀昭、中村勝也、國廣 陽子、玉野 政枝、山本 彩乃、中村 成孝

### 会 議 議 事 録

#### 1 開 会

#### 2 グループワーク（以下、委員からの提案等）

(1) 前回の振り返りと総合戦略掲載施策・事業等の検討

【前回までの振り返り】

- 周南市に住んでいるが、転入の手続きを取っておらず、市の情報が届かない人もいるのではないかと。届いているかどうかモニタリングする必要があるのではないかと。
- 不登校児の居場所について、市のホームページを見ると、「適応指導教室」と記載してあったが、不登校に悩んでいる保護者に寄り添った表現ではないと感じた。制度上変えることは難しいかもしれないが、表現を工夫してはいかかがか。
- 生きる力について、子どもが事件に巻き込まれる事例があり、子ども自身も生きる力が必要となってきたと感じる。少子化だからこそ、今の子供たちを大切に育てていかないといけない。
- 生きる力については、国も県も重視している。特に、社会情勢から危険を予知するというのも生きる力に直結する。現在の教育は、教えられることを聞くだけではなく、考え、判断する流れとなっている。それが確かな学力につながる。それにより、正しい方向を選んでいける。すべてのものが生きる力に繋がっていかうとしている。実践につなげることが大事。
- 危険から身を守るだけでなく、ものを育てる、食べるものを自分で育てる。こういったことも生きる力につながるのでは。
- 体験学習が大事。自分たちで課題を見つけて、解決方法を考える。
- アクティブラーニングという言葉があるが、これは、以前からやっていたこと。

課題解決学習。さらに体験を加えたり、こどもたち自身が課題を見つけて解決したりする。

- ぞうさんの家やファミリーサポートの拠点について。月曜から金曜までの開園だと思うが、土曜日の午前中だけでも空いていれば、新規登録など、平日に対応できない人も、落ち着いた状況で連絡できるのでは。電話サービスだけでも実施してはいかがか。
- 原則と書いてあると遠慮してしまう。土曜日大丈夫と書いてあると安心できる。依頼の受付は、柔軟に対応してもらっているが、新規登録も幅を広げるとより使いやすくなるのでは。自分自身が時間が取れなくて登録自体をあきらめた経験がある。子育て期は子育てに追われ時間に余裕がない。
- ファミリーサポートセンターの地区リーダーの方がいらっしゃることが心強かった。ぞうさんの家は駐車場が狭く、一杯で入れない。そういった些細なことも大きな壁になってしまう。最初のハードルは低い方が良い。
- 自身の経験から、病児保育が小学校6年生までだとありがたいと感じた。小学3年生までは病児保育室に預けることが出来るが、それ以降は利用できない。仕事が休めない場合は、遠方の家族を頼るしかない。小学校の高学年が空白だと感じる。職場でも小学3年生までは、看護休暇を取得できるが、高学年は取得できない。
- 国が方針を出しており、病児保育は小学校を卒業するまで対象とした。それにあわせて周南市でも修正することとしている。

#### 【事業を絞る場合の視点や市の強みについて】

- 働いている親の受け皿が必要。お母さんに優しい周南市というのはいかがでしょうか。
- 給食費が無料の自治体もある。そういった自治体と比べると見劣りがする気がする。
- 転勤先の制度が良いので、周南市出身なのに家族は戻って来ず、単身赴任している場合もある。目玉というなら、給食費を無料にするなど経済的な支援とか、児童クラブ、保育所の充実などもある。
- 病児保育という面から言うと、病院に保育園があるのは良いと思う。
- 医療費の無料化の拡充は良いことだと思うが、全国の自治体と比較する等の数字を示すと分かりやすい。もっと高学年まで無料化している自治体もある。雇用の場が少ないようなところは、医療費の無料化などの手厚さを魅力としている。条件は悪くても住みたくなるようなものが必要では。
- スイミングやピアノなど、色々指導をしてくれる園の話をきいたことがある。私立の保育園ではニーズに応じていろんな取組みをしている。公立の保育園でそういったサービスを取り入れることが出来ないか検討する価値はあるので

はないか。

- 周南市は海も山もあり、色々な場で教育が出来そう。都会から来る人には魅力的なのではないか。閉じ込められた保育ではなく、いろんな場所を経験できると良いのではないか。のびのびと遊べる環境が小学校時代にはあってもよいのではないか。児童クラブでは、その部分で制約が多いと感じる。冒険遊びの要素が入った児童クラブがあっても良いと思う。
- 公民館で放課後こども教室を実施していると思うが、あれを児童クラブで実施できれば良いと思う。
- 自然に触れておくことは大事だと思う。これまでの取組みに自然との触れ合いがプラスされれば強みになるのではないか。
- 普通教育へのエアコン設置について、確かに最近の気候は異常な部分があるので、授業に集中するために必要かもしれない。
- 確かな学力、生きる力というのは、就労とか創業につながる学力でないと意味がないのではないかと思う。どういう人が就職できるかということと大学を卒業していることではなく、簿記等の資格を持っている人。こどもの時に実学をするということではなく、そこに繋げること。周南市のコンビナートは昔、誘致したから。工場で働くことができるようになった。工業高校を卒業した若者が就職できる。そういったビジョンが必要。補助金がある事業をやらないよりやる方が良いと思うが、戦略としては、そのような方向性を考えた方が良いと思う。
- 高専は県外に就職することが多く、工業高校の方が地元就職が多い傾向があると思う。これまでは港を整備するなどしてコンビナートを維持してきたが、産業構造が変わり撤退する工場も出てきている。これからの産業で何が生き残っていくかを見据える必要がある。
- 体験が必要という話があったが、学ぶことが多い中で、全て体験させているというのは不可能。そういった中で、ICTを活用することで、疑似体験ではあるが、写真だけではなく動画が見られる環境が整う。問題解決学習にしても、与えられるだけでなく、自らが課題を探していこうということに繋がる。
- 既存の企業に勤めるのではなく、自分のやりたい仕事を選択できる子供が増えたら地方に子供が残っていくのではないか。
- 今のこどもは与えられたことはできるが、自分で課題を見つけたり言われる前に動くことが得意でない。ここを育てていくのが難しいと言われている。起業する、自分で仕事を生み出そうというのは、言われたことをまじめにやるだけでは生み出せない。
- そこが生きる力となるのでは。
- そこの基本となるのが遊びなのだと思う。答えが無い課題だと学生は負担になっている。しかし、世の中にはそのようなことが多い。正しい答えを出すこと

が評価されてきた結果だと思う。間違っても良いことを小さいうちから体験してほしい。体験できる場が遊びだと思う。児童クラブと冒険遊び場がコラボできるとよい。

- 青山にあるこども仕事館というように仕事を体験できるようなものはどうか。
- 冒険遊び場はハコモノは必要ないが人手は必要。

#### 【ワークライフバランスについて】

- ワークライフバランスについては、企業や組合が非常に力を入れている。短時間勤務や休業制度等を充実させてきているが、行政として関わられることは少ないと思う。児童クラブの時間延長などであればできると思う。
- ゆう活を東ソーは先んじて導入している。20時以降の残業禁止。20時以降の残業は朝方勤務で対応。朝方勤務手当もある。行政として引っ張ってもらえれば他の企業でも動きがあるかも知れない。
- 夕方早く帰ることで、家族とコミュニケーションが取れたり、一緒に夕食が取れたりするのは良いという声はある。女性にとっては短時間勤務や、朝、家族を送り出す必要があったりするので難しい側面があるかもしれない。
- ワークライフバランスという視点では、制度も整えられつつあるが、実際には、制度が整っていても働かざるを得ない環境の人もある。そういった人たちのために、保育園の時間延長や病児保育等の充実などは行政の取り組みが必要。会社は制度を整え、利用してもらうように努めるが、どうしても働かないといけない女性もいる。そこがうまくバランスが取れると良い。一番大切なのは子供が犠牲になっていないかという視点。その視点で企業の制度と行政の制度と利用者の気持ちの落としどころが付くととても良い。企業だけでは足りない部分がある。
- 状況が刻々と変わる中で、今、相談したいことをどこに相談すればよいか分からない。何かあったらいつでも意見を聞くという姿勢が行政には重要であり、聞きっぱなしではなく、そこから対策を考えることが必要。
- 近くに実家がない人は苦勞が多いのでは。子どもの病気だけでなく、台風等で休校になることもある。そこで休めないファミリーサポートセンターを頼ることになるかも知れないが、一日依頼すると高額となる。そこは会社ではなく行政にお願いしたい。
- 父親の育休取得率の目標を定めてはどうか。取得しやすい風土づくりが重要。まず行政が取り組むと良いのでは。
- 目標は1か月くらいか。1か月くらいとらないと分からないと思う。
- 育休に関しては、上司の理解も必要。世代が変わると考え方がかなり違う。
- フレックス制度なども活用できる。

- 地域活動なども特別休暇になるとありがたい。現役のころから地域に関わるのは、男性にも必要なことだと思う。

【数値目標について】

- 現在の子どもの人数が1,189人であることから、目標として、根拠はないが1,300人ではどうか。

### 3 閉会

(次回開催案内)